

第2回城東学園小中一貫校整備検討委員会

日時：令和6年9月24日 午後7時～

場所：大東北公民館集会室

次 第

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 前回の振り返り

(1) スケジュール確認

資料1

(2) 議事録の確認（前回の意見と事務局対応の確認）

4 報告事項

(1) 保護者意見交換会の開催について

資料2

(2) 沼津市立静浦小中一貫学校の視察について

資料3

(3) ご意見募集フォームに寄せられた御意見について

資料4

5 協議事項（委員長進行）

(1) 学校の建設地について

資料5 参考資料1

(2) 施設整備コンセプト・基本方針について

資料6

(3) 新しい学校に望むこと、継承したいこと（ワークショップ検討）

資料7

(4) 次回までの作業確認

資料1

6 今後の予定について

・「城東学園小中一貫校整備検討委員会だより」第2号の発行について 資料8

・地区説明会の開催について

（3地区で開催する。経過説明を行い建設地について意見を伺う。）

・検討委員会のLINEオープンチャットについて

資料9

7 閉 会

次回 第3回検討委員会 日時：10月30日（水）午後7時～

会場：大東北公民館集会室

城東学園小中一貫校整備検討委員会

青副 石委
野委 川員
員員 長
孝長 春
善乃



土方地区区長会
高塚 義巳
土方地区まち協
青野 孝善
きとうこども園保護者
松原 早紀

②	③
④	⑤

市議会議員
嶺岡 慎吾
土方小学校保護者
角替 孝司
土方小学校校長
鶴田 伸司
子ども育成支援協議会
水野 優美子

市議会議員
石川 紀子
佐東地区まち協
村田 敬子
城東中学校校長
柴田 勝明

②	③
	④
	⑤

佐東地区区長会
鈴木 久志
佐東小学校保護者
栗田 和之
きとうこども園保護者
土井 彩子
佐東小学校校長
大竹 佳子

中地区区長会
松下 隆
城東中学校保護者
村松 一幸
きとうこども園保護者
松下 承美

	②
	③
④	⑤

中地区まち協
近藤 保雄
中小学校保護者
松本 一茂
中小学校校長
村松 裕幸
きとうこども園園長
望月 美矢子

③	進行
⑤	記録
④	発表
②	タイムキーパー



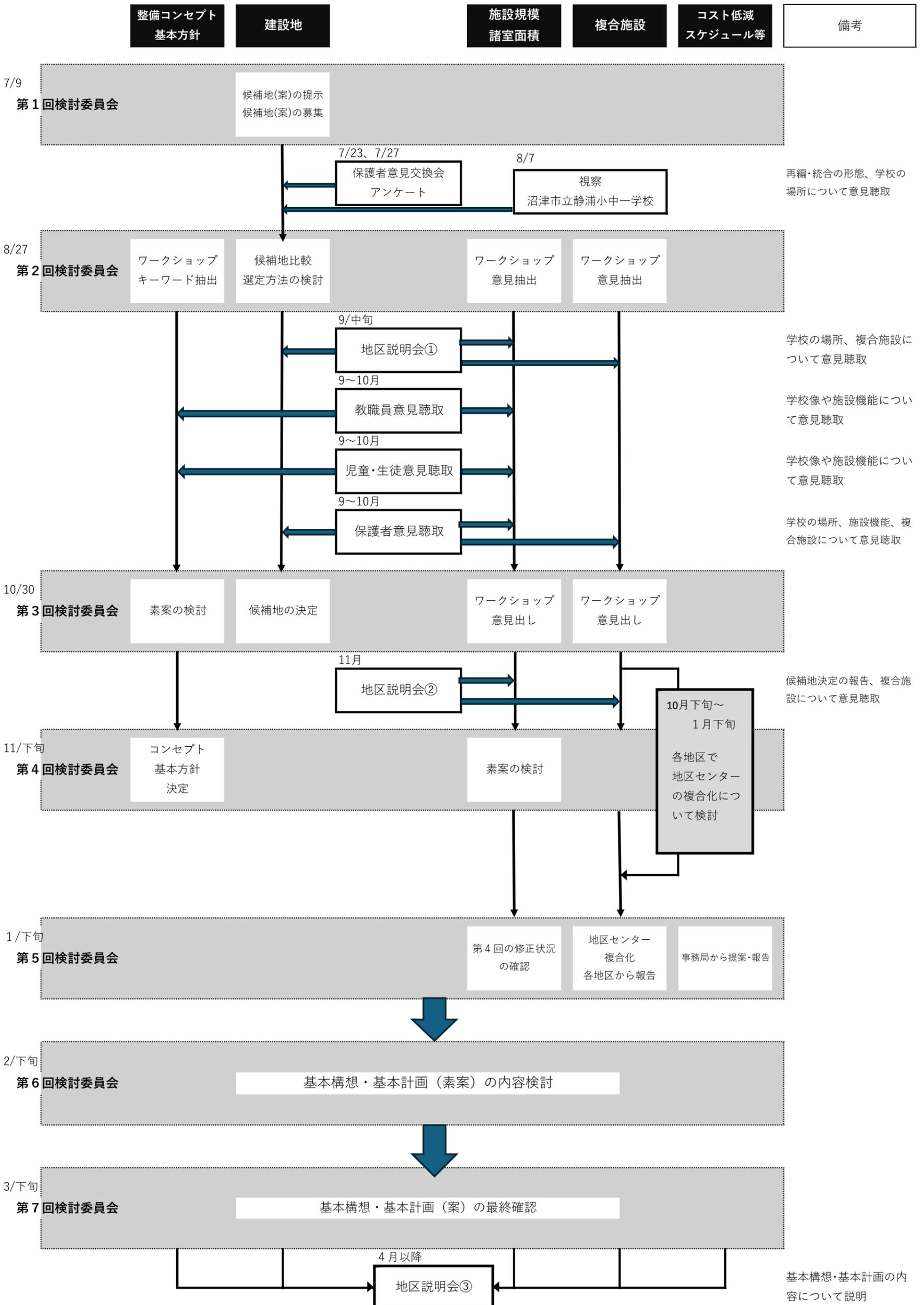
土屋 水谷 石山 縣
信二 忠史 尚哲 友紀
郎



アル パック
アル パック
アル パック
アル パック
アル パック

城東学園小中一貫校整備検討委員会検討スケジュール

日付		基本コンセプト 基本方針	施設建設地	施設規模 諸室面積等	複合施設	コスト低減 スケジュール等	備考
5月29日	準備会						
7月9日	第1回		○ 候補地（案）提示	△ 説明（新しい学校）	△ 説明（新しい学校）		
次回までの検討事項等		①事務局案以外の候補地募集 ②ワークショップの意見出し					
7月23日	保護者	保護者意見交換会					
7月27日	意見聴取	(再編・統合について、学校の建設場所についての意見聴取)					
8月7日	視察	沼津市立静浦小中一貫学校視察					
8月27日	第2回	○ (ワークショップ) キーワード出し	○ データ等比較検討 選定方法決定	△ ワークショップで出 る意見を抽出	△ ワークショップで出 る意見を抽出		
次回までの検討事項等							
9月	地区役員 との協議	地域公共施設（主に地区センターを想定）の複合化検討に向けた地区役員と市担当課との協議					資産経営課主催
9月中旬	地区説明会	経過説明、整備コンセプト・建設地について意見聴取 土方地区：9/19（木） 佐束地区： 中地区：9/14（土）					地区ごとに 3回行う
9～10月	ワークショップ アンケート	学校教職員・児童生徒向け・保護者向け (どんな学校にしたいか、施設・機能についてをメインに聴取する)					実施方法は 要検討
10月30日	第3回	○ WSの意見をもとに 素案検討	○ 候補地決定	○ (ワークショップ) 施設・機能について 意見出し	○ (ワークショップ) 複合化について 意見出し		
次回までの検討事項等							



保護者意見交換会の開催について

1. 開催概要

対象：小学校3年生までの子どもをお持ちの保護者

第1回	日 時：令和6年7月23日（火）14:00～ 場 所：大東北公民館 出 席：保護者2名
第2回	日 時：令和6年7月27日（土）10:00～ 会 場：きとうこども園 出 席：保護者8名

2. 当日の主な意見

【小中一体校について】

- ・現在こども園に通っている。想像以上に地域の子どもが減っている状況を知り、仕方ないと思うし、様々な子どもが集まって多様な学びができると良いと思う。
- ・子どもがたくさんいることで学べることもあると思う。一方、場所によるがバスで通わせることに不安も感じる。子どものことを一番に考えて進めていきたい。
- ・個人的には良いイメージを持っている。今も、こども園に中学生が来ることもあり、年の差のある交流は良いと思う。
- ・現在こども園と中学生との交流が増えていて、良いことだと思っている。小学生も一緒になってどんどんやってほしい。
- ・メリットを伺って納得する部分もあるが、一体校でも小中は分かれている方が良い。ただ、一緒に出来ることは一緒に行えば良い。いつでも行ける距離くらいが良いと思う。
- ・校舎は別で同じ敷地内が良い。高学年が小さい子のお手本になるようになる。（他2）
- ・小中学校の教員が連携して子どもを見られるのか。
- ・6年間ずっと同じ1クラスだと人間関係が固定してしまい、視野が狭くなる。
- ・支援学級を作ってほしい。

【通学について】

- ・距離が遠くなるので、スクールバスの運行は必要。中学生が2 km 以上を自転車で通学

するのに、小学生は歩きになるのはどうか。最近は荷物が重い、タブレットが重い。低学年が一番暑い時間に帰ってくる。授業の開始時間は遅くしてほしい。佐束小、岩滑のあたりは街灯が少なく、道が悪い。通学路も整備してほしい。

- ・下校の際の通学支援はどうなるのか。
- ・スクールバスで通学する場合、どこかに集まるのか。

【学校環境について】

- ・トイレの洋式化はなんとかできないか。

【地域への情報発信について】

- ・こういう会合はもう少し早く周知してほしい。土日なら午前が良い。平日 17 時半とかは参加が難しいため 19 時等が良いと思う。学校行事等と抱き合わせで実施したほうが良い。子ども会の役員に周知を頼むのが良いと思う。
- ・今回出た意見も HP で見られるようにしてほしい。(情報発信はスクリレで、URL をつけてほしい。)

【今後の一貫校の進め方について】

- ・早くやってほしい。年配の方がこだわって進まないのは困る。
- ・現状が小学生はクラス数も少ないので、早く進めてほしい。
- ・3地区の統合は子どもにとっては良いと思うが、地域の方の理解を得るのが大変。学校での生活を実際に見てもらえると良い。
- ・魅力で感じるのはプラスアルファの部分だと思うが、地域だけでなく、他の地区の人からも意見が集まればと思う。

【地域開放について】

- ・学校が終わった後にも使える施設にしてほしい。(図書室開放とか)
- ・お金や子育てで親が楽できる、学力がつく、有名な人が出たとか、そういうところで魅力を出していければ良い。プールの開放等、学校をオープンにしてほしい。

【候補地について】

- ・女子医大跡地かなと思う。通っている中学生にグラウンドの使用などで制限がかかるよりは、別の場所で建てたほうが良いと思う。

- ・現在小中学校が立地する場所は災害危険の場所になっているが、女子医大跡地はどうか。
- ・土方小と幼稚園を一緒にすると、敷地面積は十分か。
- ・3校の中間の場所にしてほしい。
- ・現在3校が城東中に通っているなので、その辺りかと思っている。
- ・山を越えて中学校に通っていたので、山を越えずに通いたい。

【中学校区の統合について】

- ・同じ大東でも、城東と大浜はだいぶ違う。将来は統合があるかもしれない。城東地域自体を人が住みやすい地域にしないとダメ。
- ・バスにさえ乗れば距離は関係ないが、地震等が起きたときに不安がある。
- ・効率を考えればアリと思うが、地元の感覚もあると思う。
- ・魅力のある一貫校が出来れば良い。どこにでもある学校ではなく、その学校ならではの体験が出来るとするのがあれば良い。

3. ネットによるアンケート結果

実施方法：意見交換会で使用した説明動画を視聴していただき、WEBアンケートに回答していただいた。

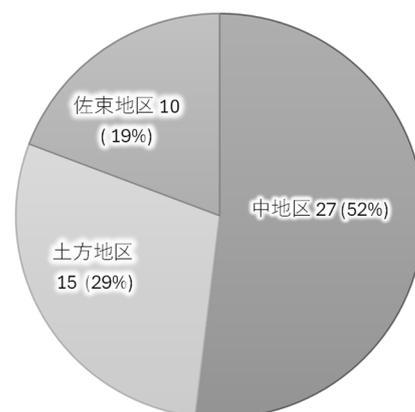
回答者数：52名

回収期間：7月23日～8月12日

設問及び回答集計

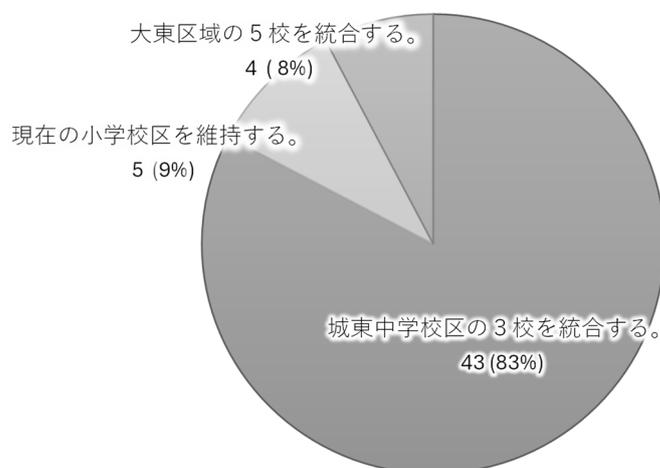
①お住いの地区について

項目	人数	割合
中地区	27	51.9%
土方地区	15	28.8%
佐東地区	10	19.2%
総計	52	100.0%



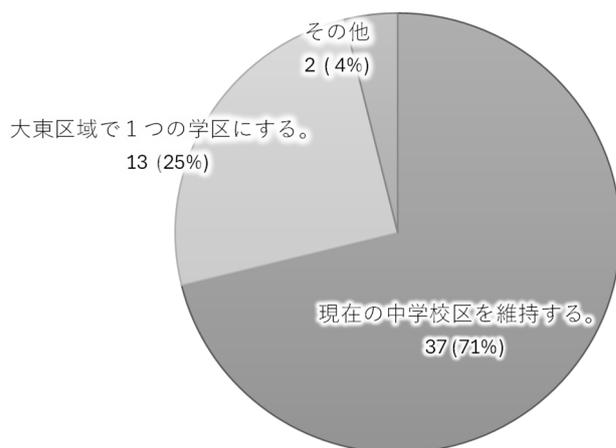
②小学校の統合についてあなたのお考えを教えてください。

	人数	割合
城東中学校区の3校統合	43	82.7%
現在の小学校区を維持	5	9.6%
大東区域の5校を統合	4	7.7%
総計	52	100.0%



③ 中学校の統合についてあなたのお考えを教えてください。

項目	人数	割合
現在の中学校区を維持	37	71.2%
大東区域で1つの学区	13	25.0%
その他	2	3.8%
総計	52	100.0%

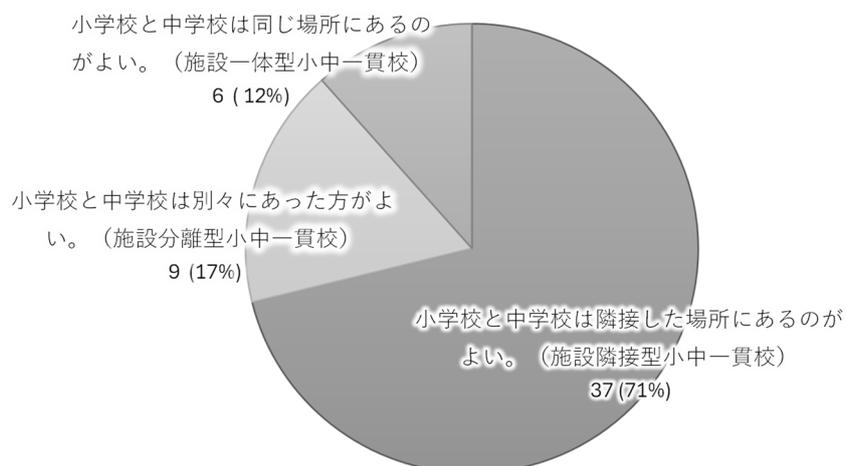


(その他の意見)

・現在の中学校区の維持で良いが、ゆくゆくは大東地区で一つの規模でも良いと思う。他

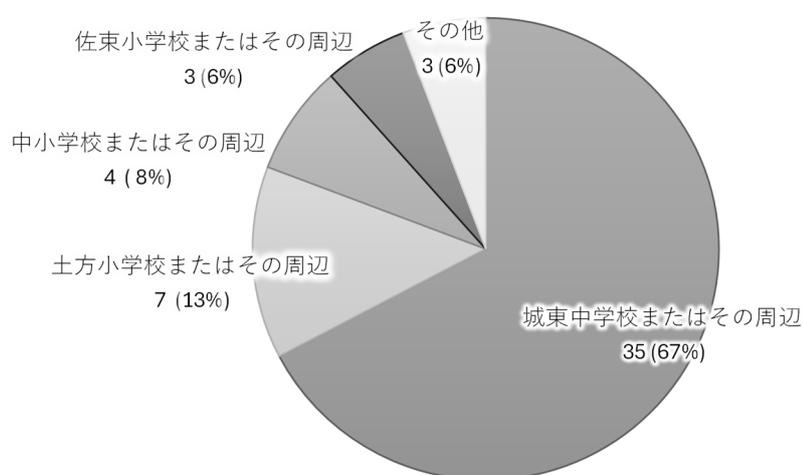
④ 今後の小中学校の形態についてあなたのお考えを教えてください。

項目	人数	割合
小学校と中学校は隣接した場所にあるのがよい。 (施設隣接型小中一貫校)	37	71.2%
小学校と中学校は別々にあった方がよい。 (施設分離型小中一貫校)	9	17.3%
小学校と中学校は同じ場所にあるのがよい。 (施設一体型小中一貫校)	6	11.5%
総計	52	100.0%



⑤ 学校を再編・統合した場合に学校の建設地として最も適切と思う場所を教えてください。

項目	人数	割合
城東中学校またはその周辺	35	67.3%
土方小学校またはその周辺	7	13.5%
中小学校またはその周辺	4	7.7%
佐東小学校またはその周辺	3	5.8%
その他	3	5.8%
総計	52	100.0%



(その他に関する意見)

- ・きとうこども園の周辺
- ・東京女子医大跡地周辺
- ・理想は中学校周辺だが、災害時の送迎や避難所指定された際に不安がある。

【城東中学校またはその周辺】

- ・3 地区間の距離のバランスが取れていると感じるから
- ・きとうこども園と城東中学校が近く、それぞれの施設の子どもたちの交流があるといいと思うから。
- ・中学校が近いことで交流ができたり、進学がスムーズにできたりしそうだから。
- ・こども園も近くにあるし、災害時などにお迎えに行きやすい
- ・早い着工を望むので、女子医大があった更地の土地で着工して欲しい

【佐東小学校またはその周辺】

- ・中地区、土方地区、佐東地区の真ん中をとると、城東中近くが良いと思ったが、佐東地区は大きな坂があるため、徒歩の通学は難しい。
- ・城東中学の場所だった場合、中地区、土方地区、佐東地区、全ての地区が遠く、歩いて

行けるお子さんはほとんどいないことを考えた。

- ・通勤や通学で多く使われる道路の近くであり、利便性の高い場所を選択した。多くの大人が目にする場所であることで、子供の安全も監視される環境が望ましいと考えた。

【中小学校またはその周辺】

- ・他の地区と比べてみると交通量が少ないかなと感じるので安全面を考えて
- ・大東地区全体だと、中間くらいになるから。

【土方小学校またはその周辺】

- ・城東中は山の上で通学が大変だった
- ・佐束小の近くは車通りが多くて怖い
- ・道のアップダウンがなく通いやすいと思う。

⑦学校の再編・統合を行う場合に不安に感じていることがあれば教えてください。**【通学に関すること】**

- ・小学校が遠くなることによって徒歩登校に無理が生じた場合、バス通学になるのか。近年、通園バスによる事故が起きている為どのような対応になるのか不安。
- ・住んでいるところから遠くなった場合、低学年の子は登下校で歩くのが大変だと思う

【教育環境に関すること】

- ・少ない人数の生徒を沢山の先生達で教育してもらえていて、生徒一人一人の名前を覚えて頂けている今の環境も悪くないと思う。
- ・学校の教育方針などのあり方を開校前からうるさいくらいに保護者に説明して欲しい。1番大変な教育への配慮もしっかりして欲しいです。

【早期の統合に関すること】

- ・きとうこども園で仲良くなった他学区の子と小学校でバラバラになってしまうのが不安。早く統合を進めてほしい。

【保護者間の連携・輪】

- ・保護者同士の輪が出来ている為、他所の幼稚園や保育園から来た場合、子供は転校生の様な扱いになるし、保護者間の情報が無い為不安がある。

【生活環境に関すること】

- ・万が一イジメがあった場合、逃げ場所が無い。小学校低学年でイジメにあったとすると、同じメンバーが中学校卒業まで一緒になる為、耐えられる気がしない。
- ・中学生の自転車と小学校低学年の接触が怖い

【計画策定にかかるプロセスに関すること】

- ・新しい学校で働く教員について、これからプロジェクトチームのような開校に向けて先生たちを集めて取り組んでほしい。先生たちの異動は、プロジェクトチームの先生はなくして、開校、それから何年かはその学校のために御尽力いただけるようなプロジェクトチームをつくって頑張してほしい。
- ・反対意見には地域の衰退を危惧しているとの意見があると伺いました。「町づくり」に

関しては、教育委員会は専門外だと思しますので、他部署と協力した上で早期に問題解決を図っていただきたい。

【立地条件への不安に関すること】

- ・ 城東中付近は土砂崩れなど、自然災害が心配
- ・ 隣接、一体型になった場合保護者の駐車場問題など

③学校の再編・統合に対して御意見があれば御記入してください。

【早期の再編・再編を望む】

- ・ すでに中地区は複式学級ぎりぎり人数になっているので早く進めてもらいたい。
- ・ もし実現できるのであれば早めに対応してほしい。

【子供の交流】

- ・ 違う学年と同じクラスになるよりは他の小学校の同じ学年の子と統合するのがいいと思います

【中学校区の再編】

- ・ 一学年の人数が少ないので、大浜中もあわせて統合した方がいいと思う。
- ・ 今後、大東町で1つの小中学校に統合する必要があるときは、先行して統合した城東小中へ組み込むことを見込んで、段取りをしてほしい。

【PTA 等の組織について】

- ・ 再編するにあたり、PTA の組織はとても大切だと考えています。が、統合するのであればPTAではなく、こども園のように保護者会として欲しい。

【地域との情報共有について】

- ・ もっとみなさんが話しやすい場、考えてもらう場を増やして行って欲しいです。共働きでみんながみんな土日祝日休みとは限らないと思います。どこかで参加できる様に平日も夜や昼の時間帯、土日祝日もいろんな時間帯を設けて意見交流会を予定して欲しいです。

沼津市立静浦小中一貫学校の視察について

1. 開催概要

日時：令和6年8月7日（水）13:00～
場所：沼津市立静浦小中一貫学校
参加者：委員長、議員2名、自治会役員等6名、保護者代表2名、教職員等5名
行政8名、計画策定委託業者5名
回答者数：15名

2. 視察での感想のまとめ

※【 】数字は重複意見の数

①これはいいな、城東学園でも取り入れたいなと思った施設や機能

【施設デザイン】

- ・木材が多くて暖かい。丸窓のデザインがいい。【2】
- ・船のデザインは、遊び心もあってとても良い。

【学校配置】

- ・各階の交流スペース（コモンスペース）の設置。【3】
- ・昇降口が1つに集中しているところ。【2】
- ・校舎・校庭が広すぎて低学年が対応できる工夫が必要。
- ・グラウンドが広く確保されていて良い。（小グラウンド、大グラウンドがあると良い）

【教室等について】

- ・特別教室に小中が共同で使えるように、余裕のある数があると良い。
- ・体育館とは別に武道場があるのが良い。ここにエアコンを整備し、集会場として使う。
- ・小さな応接室がたくさんあるところ。
- ・畳スペースをつくっても良い。

【管理諸室等について】

- ・職員室と低学年の教室が近いところ。【2】
- ・広い保健室とカウンセリングルーム、相談室が一体となっているところ。
- ・給食室をみることができる。

【各階に通じる図書館】

- ・図書館が各階にあった点。（中心にあった点）【5】
- ・図書館が広く、静かに利用できる。
- ・図書室に畳（敷物）があり、くつろげる場だが、和室として茶道・華道などの作法を学ぶ場として共有すると良い。

【多目的ホール】

- ・大きめの多目的ホールはほしい。

【開放的な共用空間（広い廊下）】

- ・廊下が広い。（多目的に使い得る機能が良いと思う）【3】
- ・吹き抜けがあることで明るくて良い。
- ・交流スペースに展示ができるのが良い。【2】
- ・アイランド型の水道空間が良い。

【購買・売店】

- ・学用品が購入できる場所。【3】

【放課後児童クラブ】

- ・放課後児童クラブが校舎内にあるのは取り入れてほしい。【2】
- ・放課後児童クラブ（独立できる）施設をつくりたい。

【安全・安心への対応】

- ・地域の防災拠点、災害に対応した設備があり、心強い。【3】
- ・災害に強い校舎づくり。（防災対策をしっかりと取り入れた施設）【3】
- ・防犯ブザーの設置や出入口の扉を意図的に閉めることができる。【2】
- ・太陽光発電、蓄電システムを完備（屋上化）し、節電や災害対応を考える。【2】
- ・階段が小学生用の段差になっているところが良かった。
- ・バリアフリー対応のためのエレベーターの設置。
- ・色分けされた階段や安全な避難路の確保。

【学年の区切り】

- ・小学校と中学校で分けるのではなく、初志部、立志部、大志部と分け、9年生としていくことが良いと感じた。【2】
- ・リーダーのタイミングが3回ある点。

【教育体制】

- ・一貫校になって校長が一人というのが良い。
- ・段階的な教科担任制。【2】
- ・指導指針「シラバス」「9年間の連続性」の学習指導の課題を今後取り入れてもらいたい。

【複合化とその管理について】

- ・体育館1階にまち協（役場の職員が9時～21時勤務）、役所分所（9時～17時勤務）がある。
- ・体育館と地区センターが同じ建物にある。
- ・体育館（社会体育）と学校の管理を分離している。

【通学支援】

- ・バス通学（バス回転場の設置）
- ・徒歩、バス、車での登校、引き渡しも対応できる校内動線。

【計画策定のプロセス】

- ・公募型プロポーザル方式の採用。【2】
- ・地域とともに魅力的な学校にするために説明会、アンケート調査を繰り返し行っていく。

②気になった点・疑問に感じた点**【将来を見越した計画】**

- ・10年で2クラスが1クラス（15人以下）になっている。将来をしっかりと考えた計画が必要。
- ・良い施設であっても生徒が減少するのは地域、行政事情か。外へ出ていく方が入ってくる方より多い。
- ・私立小中学校が子ども獲得に力を入れている。それに対応する小中一貫校の魅力づくりをどう考えるか。

【学校配置】

- ・吹き抜けは安全面を考えるとしっかりと議論すべきだと思う。【2】
- ・教室やグラウンド等への移動の時間。（施設が大きいと間に合うか）【2】
- ・小学校1、2年生は広くて大変ではないか。親もバラバラの地区から来ていて不安はないか。
- ・ロの字の学校は隠れる場所もあり、少し見えない危険があるように思う。
- ・ロの字型の配置は空調がないときつい。北型の美術室などが暗いと感じた。

【開放的な教室配置（廊下スペース）】

- ・教室間の声の問題
- ・廊下スペースが若干ごちゃごちゃしていると感じた。教室内の壁が少なく、掲示スペースが少ないからかもしれない。

【特別支援教室】

- ・特別支援の教室の扉が大きい、児童の特性を考えて検討すべき。

【収納スペース等について】

- ・ロッカー等の収納が少ないように感じた。
- ・収納スペース（子ども個人のもの、学校としての倉庫）がもっとあると良い。

【プール・体育館】

- ・プールはいらなくなるだろうと感じた。（民営化された方が良いかもしれない）【2】
- ・体育館が冷暖房なしとすると1階と2階どちらかが暑くないのか。暑さ対策（エアコンに頼らない方法）として、開放できる窓を多くするほか、緑を増やすなど考えていきたい。【2】
- ・プールが1つであることで使い分けに工夫。（小プールはあるが）【2】
- ・プールの水深問題についてはしっかりと考えるべき。（下に台をおいて対応している）

【安全・安心（防犯、衛生面、動線、防災）】

- ・（落下防止等の）ネットのほこりは、いつ・誰が掃除するのか。加えてアレルギーなどへの対応。【2】
- ・校舎入口や体育館の階段などによるけが。
- ・登校する生徒が職員室から見えにくいのではないか。
- ・海が近すぎて防災の取組について訓練されているのか聞いたかった。
- ・本当に4階まで避難が可能か。外からお年寄りや体の不自由な人は大丈夫だろうか。

【学年の区切りについて】

- ・感覚的には6年・3年（の区切り）はこわさない小中一貫にしてほしい。【2】
- ・中1ギャップの解決になったのかどうか。3つの部に分けることで思春期を乗り越えることができたのか。

【通学に関すること】

- ・小学生低学年の通学が問題。3km 歩いて通学できるのか。通学に関しても平等をしっかりと考えてもらいたい。
- ・路線バスの整備、補助金（援助）の確立をしっかりとしていくべき（特に低学年）
- ・低学年はバス通学が多くなるが、だんだんと徒歩になる。

③現地での質疑応答の記録

Q：避難階段を1階から4階まで上がって子どもや老人が避難できるのか。

A：定期的に避難訓練を行っている。

Q：屋内プールの計画はあったか。

A：検討はしたが維持管理コストがかかることから通常のプールになった。武道場の上にプールを設置する案もあった。今後は民間のプールを活用していく方針。

Q：隣接地区からの通学、隣接地区への通学が可能とのことだったが、静浦の状況は。

A：入ってくる子よりも出ていく子のほうが少しだけ多い状況。

Q：小学校低学年の登下校の状況は。

A：通学支援の制度があり、路線バスに乗って通学する子どもも多い。高学年に上がるにつれて徒歩通学が増える傾向がある。通学支援の制度は時限的なものだったが、保護者の要望を受けて継続している。

Q：コミュニティスクールのメリット、デメリットは。

A：コミュニティスクールの制度をスタートする前からコミュニティスクールのような取り組みは行われていた。制度を取り入れてシステム化することができたのではないかと思う。授業支援や見守り等を行っていただいている。事前に授業計画を考え、打合せを行わないといけないので教員にとっては負担になっている面もあるかもしれない。

Q：吹き抜け部分の転落防止用ネットの点検や清掃の頻度は。

A：法定で決められてたものは、決められた時期に業者が行っている。日常的には教職員

が行っている。

Q：学校の施設開放の状況は。

A：体育館の貸し出しは学校が窓口となっている。体育館以外の施設の貸し出しは行っていない。

Q：昇降口が2階、骨折などの子どもはどのように校舎に入るのか。

エレベーターがあるので、それを使って移動することはできる。ただし、子どもだけでの使用を認めていないので、大人が付き添う必要がある。

実際には、松葉づえをついた子どもでも階段を使って生活することが多い。

Q：教室の扉は常に開放しているのか。うるさくて授業に集中できないということはないか。

A：夏はエアコンを使用することもあり閉めていることが多い。大きな声を出すような授業内容の時には事前に担任同士で連絡をして対策している。声が大きくて困ったということはありません。

Q：1年生15人の入学前の就園の状況は。

A：沼津市は小規模な園が多いこともあり、多くの園から入学してくる。8園から入学してきている。保護者の関係を構築するのなかなかたいへん。

Q：小中のプールの使い分けは。

A：低学年は小プールを使う。大プールは深さが調節できるようになっており、それで調節をして使用している。

Q：素晴らしい施設をつくっても子どもの数が減っている。どのように考えているか。

A：沼津市だけではなく全国的な問題。子育て支援については様々な対策を講じているが、すぐに効果が出るものではない。子どもによりよい教育環境を整えてあげることが大事だと考えている。

事務局から

今回の視察は、皆さんに小中一貫校のイメージを持っていただくこと、学校と公共施設の複合化された施設の実態を見ていただくことを目的に実施しました。

今後、

- ・基本構想・基本計画策定の中でどのような施設、設備が必要か検討していただく際に
- ・基本設計の段階で具体的なレイアウトを検討していただく際に

今回の視察で感じた点などが検討の際の参考になるものと思います。視察で得られた知見を今後の検討の中で反映させていただくようお願いいたします。

御参加いただいた皆様、ありがとうございました。

第2回検討委員会報告

ご意見募集フォームに寄せられた御意見について

検討委員会だよりに掲載した学校再編に関する専用のご意見フォームにお寄せいただいたご意見の内容について報告いたします。

検討委員会を立ち上げた7月のはじめから8月23日までの間に6名の方からご意見をいただきました。

このご意見フォームは、検討委員会で検討を行っている間開設し、寄せられたご意見は検討委員会で報告させていただきます。



【通学支援について】

- ・小学生は通うのが大変だと思うので、佐東と中は元々の小学校からスクールバスで送迎があった方が良いでしょう。

【小中一貫への期待】

- ・人数が減っているので小中一貫が出来たらどんな感じなのか楽しみです！
- ・各学校の老朽化、中学の裏の山の崩落の危険性、児童の減少、地震等発生時の子供の迎への利便性など、各方面から考えても早急に実施してもらいたいです。
- ・少子化や校舎の老朽化も考えると良いタイミングだと思う。小中一緒なら中学校に進学する時、友達もある程度顔見知りで、スムーズに進学できそうだが子ども親も人間関係がこじれた時はどうなるか心配。

【候補地について】

- ・私は東京女子医科大学の跡地に小中一貫校を作りたいを希望します。近くに北運動場もあり、こども園もあり、好立地だと思っています。

【特別支援学級について】

- ・小中学校再編案の事例には、特別支援学級が明記されている学校が少数でしたが、特別な支援や配慮が必要な児童生徒にとって、小中が連携した教育・支援をしてもらえる事は大きな強みになると思います。そのため、構想段階・設計段階での、特別支援学級設置(対象・クラス数)の明記を強く求めます。

【校舎の設備・間取りについて】

- ・教室間の壁を移動して空間変更できる、大階段が学習や練習のスペースとなるなどの事例が多くあったように感じます。これらは、本当に教育効果や児童生徒の安心安全に繋がる物なのでしょうか。「何となく良く見える風」のデザインではなく、多様な児童生徒の生活しやすさにつながる「ユニバーサルデザイン」を意識した、設計や間取りを希望します。

【施設の維持管理について】

- ・今回の学校再編の大テーマが「老朽化した施設を統合し、長く使える施設に」だと思われます。無駄な設備や長寿命化に適さない素材を使ったことで施設の寿命が短くなり、数十年後の学校再々編議論が早まる事になれば本末転倒です。設備更新や修繕費の少なく、長く地域で活用できる学校の建設を望みます。

【地域交流について】

- ・佐東地区は、福祉事業所の数が他地域に比べ圧倒的に少ない。レクリエーションや交流の場として貸し出すのではなく、その解消に向けた拠点としての機能が敷地内の地域交流スペースに有れば嬉しいです。
- ・交流スペースの一区画を、障害児向けの学童(放課後等デイサービス)への業務委託した事業所に開放するなど、地区に住む障害者全体を対象にする事は難しくても、地区に住む障害児・家族が「地域と繋がる場」としての機能を、小中一貫校が持つことを望みます。

城東小中一貫校整備 建設候補地の評価及び課題の比較

参考欄の記載は事務局案です。
○：優れている △：やや劣っている ×：劣っている

	参考	候補地 1：城東中学校	参考	候補地 2：東京女子医科大学跡地	参考	候補地 3：佐東小学校+佐東幼稚園跡地
概要		・現在の城東中学校の敷地に小中一貫校を建設する。		・東京女子医科大学跡地に小中一貫校を建設する。		・佐東小学校及び幼稚園跡地に小中一貫校を建設する。
現況図 (同縮尺)						
候補地の面積	○	・35,045 m ² (学校施設台帳面積)	○	・34,120 m ² (登記簿面積) ・敷地面に高低差があり、造成のやり方によっては、活用できる面積が減少する可能性がある。	×	・26,989 m ² 内訳 佐東小学校 22,365 m ² (学校施設台帳面積) 佐東幼稚園 4,624 m ² (市公共施設カルテ面積)
用地取得の必要性	○	・市有地であるため、用地取得の必要性がない。 ・西側 山林(丘陵地)(私有地)	○	・市有地であるため、用地取得の必要性がない。 ・東側 農地(青地) ・西側 大東北運動場(市有地)	△	・市有地であるため、用地取得の必要性がない。 ・南側の農地は農用地区域(青地農地)であり、農振除外・農地転用して拡張用地とするのは困難。 ・小中一貫校用地としては狭く、佐東幼稚園跡地を含めた場合でも小中一貫校の敷地として十分な広さが無い。
敷地形状・周辺環境等	△	・敷地形状は不整形かつ南北に長い敷地であり、現在のテニスコート敷地は北側に分離した位置にある不整形な形状。 ・丘陵地にあり、周辺環境は農地や雑木林。 ・主要地方道掛川大東線を挟んだ東側には、大東北運動場(多目的広場 16,071 m ² 、テニスコート4面、ライフスポーツ広場)がある。 ・敷地内は概ね平坦な地形。 ・こども園は主要地方道掛川大東線を挟んだ南側にある。	○	・敷地の平面形状は比較的整形であるが、敷地内の地盤面に高低差があるため、学校施設は分散配置となることが想定される。 ・丘陵地にあり、東側には茶畑が広がっている。 ・西側には大東北運動場(多目的広場 16,071 m ² 、テニスコート4面、ライフスポーツ広場)が隣接し、南側には、きとうこども園が開設されている。 ・敷地内は 35.0m、38.0m、47.5mの高低差がある地盤面。 ・こども園は南側に立地し、連携が図りやすい。	○	・敷地形状は概ね整形。 ・周辺は住宅地、農地が広がっている。 ・南側には佐東幼稚園跡地がある。 ・敷地内は概ね平坦な地形。 ・こども園から離れている。

	参考	候補地 1 : 城東中学校	参考	候補地 2 : 東京女子医科大学跡地	参考	候補地 3 : 佐東小学校+佐東幼稚園跡地
施設配置	△	<ul style="list-style-type: none"> 東西方向が短い敷地形状であるため、校舎を南向き配置とする場合は高層化する必要がある。 現在のグラウンドに校舎を建設する場合は、城東中の学校生活に影響があり、グラウンドが利用できなくなる期間が発生する。 小学生用・中学生用それぞれのグラウンドが確保できないため、兼用のグラウンドとなる。 プールは、城東中学校の既設プールの利用検討が必要。 スクールバス乗降場及びまとまりある駐車場の配置が取りにくい。 	△	<ul style="list-style-type: none"> 敷地内は地盤面に高低差があり造成のやり方によっては、野球場、テニスコートは大東北運動場の施設利用および、敷地外にグラウンド整備の検討が必要。 現状の小中学校での学校生活に大きな影響を与えることなく、小中一貫校の整備が可能である。 小学生用・中学生用それぞれのグラウンドが確保できないため、兼用のグラウンドとなる。 プールは、城東中学校の既設プールの利用検討が必要。 敷地内にスクールバス乗降場及び駐車場の配置は可能。 	×	<ul style="list-style-type: none"> 概ね、整形な敷地形状であるが、広さが十分でないため、校舎、屋内運動場、グラウンド、テニスコート等のゆとりある配置が困難。 現在のグラウンドに校舎を建設する場合は、佐東小の学校生活に影響があり、グラウンドが利用できなくなる期間が発生する。 小学生用・中学生用それぞれのグラウンドが確保できないため、兼用のグラウンドとなる。 既設プールの継続利用及び中学校プールの検討が必要。 スクールバス乗降場、駐車場の配置が困難。
通学	○	<ul style="list-style-type: none"> 主要地方道掛川大東線に路線バス（掛川大東浜岡線）のバス停（城東中前）が設置されている。バス停（城東中前）は、現在の城東中の正門から約 50m 東に位置。 徒歩及び自転車圏内の児童生徒数は全体の約 96.5%、通学補助が必要となる児童生徒数は約 3.5%。 ※現行基準（徒歩 4k m 未満、自転車 6k m 未満）の試算 ※通学補助はスクールバスや路線バス通学を想定 城東中学校区の中央部に位置しているため偏りが無く、土方小、佐東小、中小の小学校区から通学・来校しやすい。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 主要地方道掛川大東線に路線バス（掛川大東浜岡線）のバス停（大東北運動場前）が設置されている。バス停（大東北運動場前）は、敷地南側から約 100m 西に位置。 徒歩及び自転車圏内の児童生徒数は全体の約 96.5%、通学補助が必要となる児童生徒数は約 3.5%。 ※現行基準（徒歩 4k m 未満、自転車 6k m 未満）の試算 ※通学補助はスクールバスや路線バス通学を想定 城東中学校区の中央部に位置しているため偏りが無く、土方小、佐東小、中小の小学校区から通学・来校しやすい。 	△	<ul style="list-style-type: none"> 主要地方道掛川大東線に路線バス（掛川大東浜岡線）のバス停（井崎）が設置されている。バス停（井崎）は、現在の佐東小の正門から約 300m 北西に位置。 徒歩及び自転車圏内の児童生徒数は全体の約 90.7%、通学補助が必要となる児童生徒数は約 9.3%。 ※現行基準（徒歩 4k m 未満、自転車 6k m 未満）の試算 ※通学補助はスクールバスや路線バス通学を想定 城東中学校区の東部に位置しているため、通学距離に偏りがある。
候補地の安全性	△	<ul style="list-style-type: none"> 敷地の過半（西側、南側及び北側）が「急傾斜地の崩壊」土砂災害特別警戒区域・土砂災害警戒区域に該当している。 液状化危険度は評価対象外。（静岡県第 4 次地震被害想定：対象となる地層がない） 	△	<ul style="list-style-type: none"> 敷地の一部（北側及び南側）が「急傾斜地の崩壊」土砂災害特別警戒区域・土砂災害警戒区域に該当している。 液状化危険度は評価対象外。（静岡県第 4 次地震被害想定：対象となる地層がない） 	△	<ul style="list-style-type: none"> 敷地の一部（北側）が「急傾斜地の崩壊」土砂災害警戒区域に該当している。 液状化危険度は評価対象外。（静岡県第 4 次地震被害想定：対象となる地層がない） 敷地全体が佐東川の外水氾濫 0.3m 未満の区域となっている。
経済性	△	<ul style="list-style-type: none"> 現在の校舎がある場所に施設を整備する場合は、仮設校舎の建設が必要。 土砂災害警戒区域を解除するための造成工事、擁壁工事が必要であり、事業費が多く掛かる。 土砂災害への対策を講じるために造成費が必要。約 3.7 億円（西側の用地取得費・消費税除く）※ 既存校舎等を利用しながら工事を行う場合は、接道条件に課題がある。（工事車両動線：道路との高低差、学校動線との分離） 	△	<ul style="list-style-type: none"> 仮設校舎を建設せずに小中一貫校整備が可能。 敷地内の造成された地盤面を活かしながら校舎等を配置すれば造成費の抑制は可能だが、使用できる面積は減少する。 土砂災害への対策を講じるために造成費が必要。約 1.3 億円（消費税除く）※ 	△	<ul style="list-style-type: none"> 現在の校舎がある場所に施設を整備する場合は、仮設校舎の建設が必要。 土砂災害を考慮し、対策を行うかの検討が必要。 佐東川の外水氾濫を考慮し、校舎の 1 階フロア高さや地盤面を盛土するなどの検討が必要。
事業スケジュール	△	<ul style="list-style-type: none"> 仮設校舎を建設する場合には、全体の工事期間が長くなる。 土砂災害警戒区域を解除するための造成工事、擁壁工事が必要であり、事業スケジュールが長く掛かる。 敷地内に仮設校舎を建設する場合は令和 14 年度開校、仮設校舎を建設しない場合は令和 13 年度開校を想定。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 建設に係る制約条件が少ないため施設整備に関する検討が比較的容易であり、事業スケジュールの見通しが立てやすい。 土砂災害警戒区域を解除するための造成工事、擁壁工事が必要。（候補地 1 ほど長期間の造成工事ではない） 令和 12 年度開校を想定。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 現在のグラウンド等は埋葬文化財包蔵地に含まれているため、事業スケジュールに影響する可能性がある。 仮設校舎を建設する場合には、全体の工事期間が長くなる。 大掛かりな造成工事が無いため、敷地内に仮設校舎を建設する場合及び仮設校舎を建設しない場合、ともに令和 12 年度開校を想定。

	参考	候補地 1 : 城東中学校	参考	候補地 2 : 東京女子医科大学跡地	参考	候補地 3 : 佐東小学校+佐東幼稚園跡地
都市計画との整合	○	<ul style="list-style-type: none"> 立地適正化計画における土方・佐東地域生活拠点に該当。 小・中学校は、区域内に維持する都市機能増進施設（教育施設）であるため、計画と整合している。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 立地適正化計画における土方・佐東地域生活拠点に該当。 小・中学校は、区域内に維持する都市機能増進施設（教育施設）であるため、計画と整合している。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 立地適正化計画における土方・佐東地域生活拠点に該当。 小・中学校は、区域内に維持する都市機能増進施設（教育施設）であるため、計画と整合している。

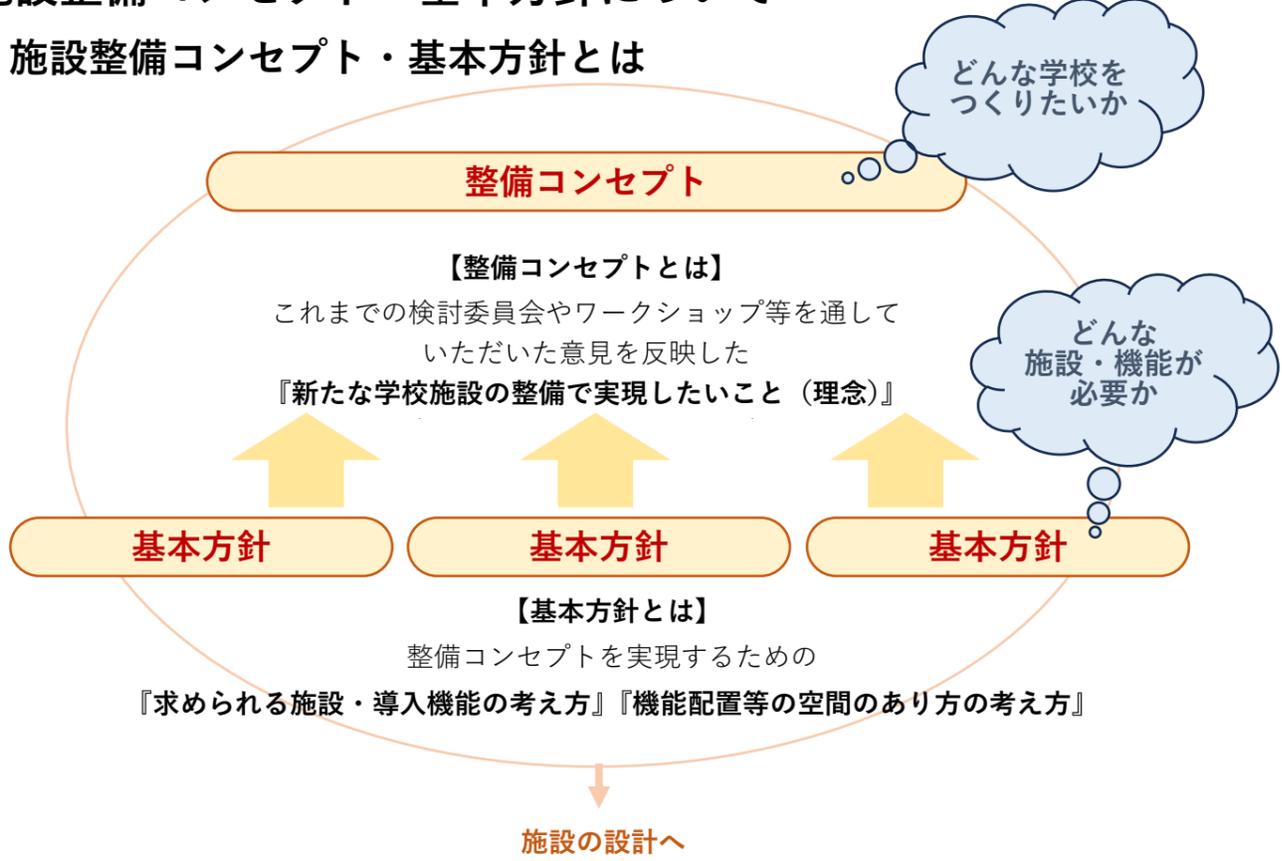
※造成費用の概算額は、現段階の試算であり、今後の具体的な計画内容によって概算額を変更する場合があります。

城東学園学校建設候補地評価シート（案）

指標		考え方	配点	候補地 1	候補地 2	候補地 3	備考
				城東中学校	東京女子医大跡地	佐東小学校	
敷地条件 (10点)	敷地面積	配置イメージ図等を参考に、学校で必要となる施設・設備が配置できる広さが確保できるか。駐車場が欲しい等の要望をかなえられることが出来る広さがあるか。 【十分な面積を確保できる場合に高評価】	5				
	敷地形状	施設を整備する際に、敷地の形状や既存の構造物（河川や道路）等によって、施設の配置が制約されることはないか。 【制約が少なく自由度が高い場合に高評価】	5				
交通の利便性・安全性 (15点)	通学経路の安全性	子どもたちが安全に通学できると思われるルートで通学路の設定が可能か。歩道や横断歩道の整備状況、交通量の少ない道路を使って通学ができるか。 【安全性が高い場合に高評価】	5				
	道路幅員等	学校周辺の道路はスクールバスや緊急車両がスムーズに進入できる道路幅員があるか。保護者の送迎などで学校周辺を通行する車両が増えたとしても渋滞が発生しにくい場所であるか。 【周辺の道路環境が良い場合に高評価】	5				
	長距離通学者	通学支援の対象となる子どもの想定人数 (小学生は4 km、中学生は6 kmが現在の基準) 【通学支援の対象となる子どもの数が少ない場合に高評価】	5				
周辺環境 (5点)	騒音・振動・臭気等の有無	落ち着いて学校生活ができる環境であるか。 【良好な環境であれば高評価】	5				
防災面 (15点)	危険度 (浸水)	ハザードマップ等における指定状況 【危険性が低ければ高評価】	5	5	5	2	
	危険度 (がけ崩れ)	ハザードマップ等における指定状況 【危険性が低ければ高評価】	5	1	3	5	
	危険度 (液状化)	ハザードマップ等における指定状況 【危険性が低ければ高評価】	5	5	5	5	
地域連携 (10点)	こども園との連携	こども園との交流のしやすさはどうか。 【交流がしやすい環境であれば高評価】	5	3	5	1	
	地域との連携	3地区の住民が学校に行きやすい場所であるか。 学校までの距離、地域住民の皆さんも駐車できる十分なスペースが確保できるか。 【学校と地域が連携しやすい場合に高評価】	5				
経済性 (5点)	用地の新規取得、造成の有無	施設建設以外に要する費用がどれくらいあるか (用地取得費や造成費等) 【安価に整備ができる場合に高評価】	5	3	3	4	
迅速性 (5点)	開校までに要する期間	開校までに要する期間の長さはどうか。 (開発申請の手続きや造成等の期間も含めて評価) 【短期間で整備できる場合に高評価】	5	3	4	3	
都市計画 (5点)	都市計画・まちづくり	跡地活用の可能性等も考慮し、候補地周辺地域及び土方・佐東・中地区全体に対する都市計画やまちづくりへの影響はどうか。 【3地区にとってより良い影響があるものを高評価】	5				
70点満点			70				

施設整備コンセプト・基本方針について

施設整備コンセプト・基本方針とは



参考：原野谷学園小中一体校における整備コンセプト

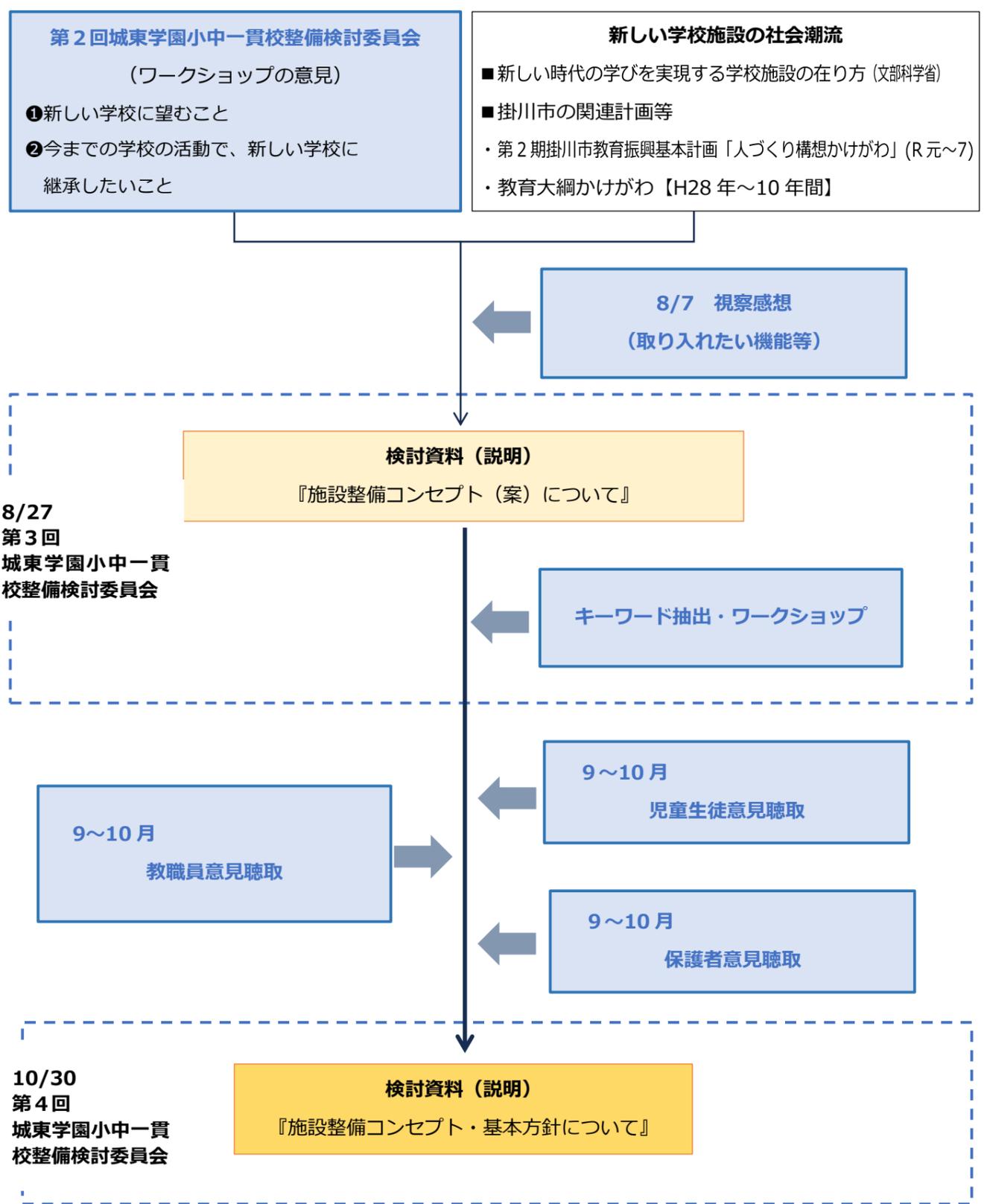
**原野谷からはじまる、夢と希望に向かう
新たな共創のまなび舎**

- 原野谷学園の地域性や現状を踏まえ、小中一貫教育を推進するためにふさわしい学校の在り方は、小中学校「施設一体型」の学校の整備が望ましい。
- 小中一貫教育の研究（小・中学校が強く連携し、一貫性のある教育を実施する）は、原野谷学園で早くから進められており、新しい学校についても掛川市において小中一貫校のモデルとなる学校づくりを目指す。
- 児童生徒ワークショップでは『夢』というキーワードが多く出された。これらの意向を尊重し、普段から学校で学び、生活する子どもたちが、前向きに過ごすことができる学校づくりを目指す。
- 原野谷が育んできた児童・生徒の縦と横のつながり、そして地域とのつながりを活かした協働的な学びを実現する学校づくりを目指す。

基本方針

- ① 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向け、柔軟で創造的な学習空間づくり
- ② 児童生徒の心のゆとりを生む、健やかな学習・生活空間づくり
- ③ まわりの豊かなみどりに調和し、自然を感じることでできる施設づくり
- ④ 地域とのつながり・交流を大切にし、ともに創造する共創空間づくり
- ⑤ 児童生徒の安心・安全に配慮した地域の防災拠点づくり
- ⑥ 教職員の働き方に配慮した学校づくり

【施設整備コンセプト・基本方針の整理の進め方】



ワークショップの実施方法について

1 ワークショップのテーマ

- ・新しい学校に望むこと
(施設面に限らず、学校の教育や様々な活動についても含めて)
- ・新しい学校へ継承したいこと
(学校の特徴、伝統、大切に思うこと)

ヒントは皆さんに御提出いただいた、委員長提出アンケートの集計にもあり！

2 グループ

お座りいただいた席ごとに3つのグループでワークショップを行っていただきます。

3 ワークショップの方法

①	各自で	・テーマに沿った意見・アイデアを付箋に書き出す。 内容が分かるように具体的に・簡潔に！	8分
②	グループで	・名簿に記載された役割分担に沿ってグループワークを行う。 ・①で付箋に書き出したものをグループ内で発表して、共有する。発表する際には、意見の具体的な内容や背景を説明するのもOKです（他の人の発表時間がなくなる程度に要点をまとめて）。 ・③で発表するために、出た意見・アイデアをグループ内でとりまとめる。	20分
③	全体で	・1グループ3分で発表して、全体で共有する。 すべてを万遍なく発表しなくてもOKです。 特徴的なものを具体的事例もあわせて紹介してください。	10分

4 注意事項

- ・発言は簡潔明瞭に。
- ・人の意見は最後まで聞く。
- ・人の意見を否定しない。
- ・このワークショップは結論を1つにまとめるものではありません。できるだけたくさんの御意見を出していただくようお願いいたします。



※各グループには事務局の職員がいますので、方法等で不明な点などがありましたら質問してください。

城東学園小中一貫校 新たな学校づくりワークショップ

新しい学校に望むこと

(施設面に限らず、学校の教育や様々な活動についても含めて)

新しい学校へ継承したいこと

(学校の特徴、伝統、大切に思うこと)

2024 年
9 月 XX 日
発行

城東学園小中一貫校 整備検討委員会だより

第 2 号

発行：掛川市教育委員会

＼第 2 回検討委員会を開催しました／

令和 6 年 9 月 24 日大東北公民館にて、第 2 回目の「城東学園小中一貫校整備検討委員会」（以下、検討委員会）を開催しました。第 2 回は主に整備コンセプト検討のワークショップと、建設地の検討を行いました。

【整備コンセプト検討のためのワークショップ】

第 2 回検討委員会において、ワークショップを実施しました。そこでの検討内容を一部ご紹介します。

テーマ：「新しい学校に望むこと、継承したいこと」

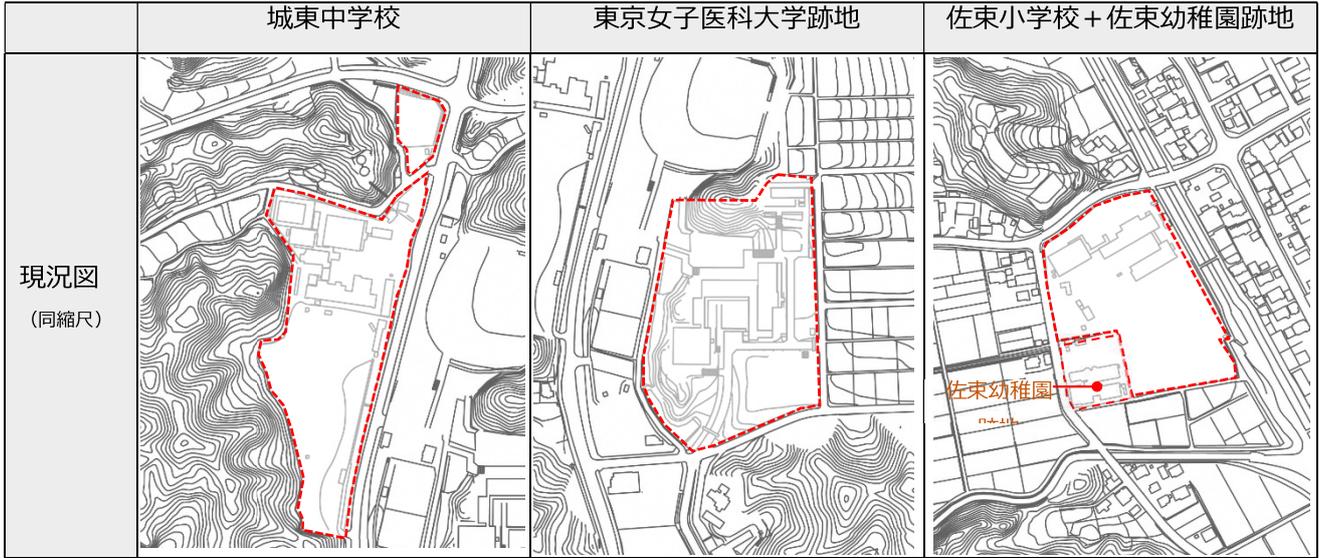
新しい学校に望むこと

新しい学校へ継承したいこと

ワークショップで出た意見を掲載します。

城東学園小中一貫校整備検討委員会だより

【学校建設地の検討】下記を候補地として調査・検討を進めています。



次回は！【整備コンセプト】と【建設地】等の検討を予定しています。

第3回城東学園小中一貫校整備検討委員会では、建設地を決定し、引き続きコンセプトについて検討を行う予定です。



第3回検討委員会

日時：令和6年10月30日（水）

日時：大東北公民会集会室

※傍聴を希望される方は前日までに 教育委員会 教育政策課 までお申し込みください。

地域説明会を開催しました！

中地区

日時：令和6年9月14日（土）

午後6時～7時

場所：中地区コミュニティ防災センター

土方地区

日時：令和6年9月19日（木）

午後7時～8時

場所：大東北公民館

佐東地区

日時：令和6年9月26日（木）

午後7時～8時

場所：佐東公民館

◆〇人の出席がありました。皆様からの貴重なご意見ありがとうございました。

先進地視察に行ってきました！

沼津市立静浦小中一貫校視察の様子

視察日：令和6年8月7日（水）



<検討委員会のホームページ>

を立ち上げました！QRコードからアクセスできます➡



<専用のご意見フォーム>

にご意見をお寄せください➡



これから検討委員会の状況は、各戸配布のおたより、また市のHPでも地域にお知らせをしていきます。今後地域・保護者の皆様への説明会や、児童生徒とのワークショップ等も開催予定のため、是非ご参加ください！

ご意見・ご質問等ございましたら、掛川市教育委員会 教育政策課 学校再編室までお問い合わせください。

〒436-8650 掛川市長谷一丁目1-1 TEL：0537-21-1155 FAX：0537-21-1222